

米兵による後を絶たない日本人女性への暴行事件に抗議する決議

10月16日未明、沖縄県において、米海軍兵による日本人女性への集団暴行事件が発生した。

今回の被害者は、住宅街を歩いているだけで米兵に襲われており、仲井真弘多沖縄県知事は直ちに「もはや正気の沙汰ではない」と強く非難し、沖縄県議会も「県民の我慢の限界をはるかに超えている」として、抗議決議及び意見書を全会一致で可決した。

女性に対する暴行は、肉体的、精神的苦痛を与えるだけでなく、人間としての尊厳を蹂躪する極めて悪質な犯罪であり、断じて許すことのできない卑劣な行為である。

このような凶悪事件が依然として後を絶たない状況を考えると、軍人への教育のあり方など米軍の取り組みに大きな疑問を抱かざるを得ない。

よって、本市議会は、米国政府に対し、日本国民の人権・生命・財産を守る立場から、今回の事件に厳重に抗議するとともに、被害者への謝罪と補償、米軍人・軍属等の綱紀粛正及び教育を徹底的に行うなど実効性ある再発防止策を講ずるよう強く求めるものである。

以上につき、決議する。

平成24年（2012年）11月2日

札幌市議会

（提出先）アメリカ合衆国バラク・オバマ大統領

（提出者）全議員